



学校だより

令和5年 6月30日

横浜市立榎が丘小学校

～豊かにかかわり合い、しっかり学ぶ、心身ともに健やかなえのきの子～

TEL 045(983)1067 FAX 045(983)5284

HPアドレス <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/enokigaoka/>



声・声・声…

校長 仲川 美世子

6月になってプール開きを行い、校庭での外体育が行いにくい本校では、なるべくたくさん水泳学習を行おうと考えています。すでに全学年で1回目の学習を終え、「初めて」「久しぶり」の学校プールの経験を重ねつつあります。本校ではプールサイドの声が職員室のモニターから聞こえるような設備になっていて、指導の様子や子どもたちの反応もとてもよく聞こえます。話題になりがちな「地獄のシャワー」を使っているときは、「キャー」という叫びに近いような声も聞こえますが、それはそれで楽しそうにも聞こえます。水に入っている指導中は、どの学年も静かにきちんと教師の指示を聞くことができている、順調に学習が進んでいる様子がうかがえます。

27日には、青葉区の「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」が4年ぶりに青葉公会堂で開かれました。これは、「よこはま子ども国際平和プログラム」の一環として行われるもので、全市で6年生が「国際平和のために、自分がやりたいこと」についてスピーチ原稿を書き、選ばれた学校代表がそれぞれの区で集まって、行われるものです。審査の結果、区の代表に選ばされると市の本選会に参加できそこでさらに選ばれると海外に子どもピースメッセンジャーとして派遣されるというプログラムです。区のコンテストで本校代表児童は「ジェンダー平等」について自分の経験に基づく考えや、やってみたいことを堂々とスピーチすることができました。また、他校の児童のスピーチでは、食品ロスにかかわること、プラスチックごみにかかわること、国籍や障害の有無、外見で人を判断しないこと、環境保護に関することなど多岐にわたる内容についての声を聞くことができました。どの内容も、自分が経験したことをきっかけとして解決に近づくために何ができるかを考えて訴えていましたが、自分にできることとして多く聞かれたのは、「相手のことをよく知ること」でした。相手のことを知るためにたくさん話をしたり、わかりあおうとしたりすることが国際平和につながるのではないかと、いうものでした。このようなことを青葉区だけでなく、横浜市内の6年生がみんな、それぞれの学校で声に出して自分の思いや考えを伝え合っている、すごい活動だなと改めて思いました。

先日、低学年の児童が「ぼく、全部の学年に友達がいるんだ」と声を出して教えてくれました。前日にたてわり活動も行ったので、その影響もあったとしたらそれはそれでうれしいなと思うのですが、そういうことを教えてくれようとしたその子の気持ちがうれしくて、思いを声に出して伝えることのよさを実感した出来事でした

職員玄関前の紫陽花➡

